

まとまった休みがとれるときには、心身のリフレッシュを求めて観光地へ行楽ドライブに出かける人も多いでしょう。そこで、事故のない安全快適な行楽ドライブをするための留意点をまとめてみました。

過密なスケジュールを立てない

観光地のドライブ計画を立てるとき、できるだけ多くの観光スポットを回ろうと、ついつい過密なスケジュールを立ててしまうことがあります。過密なスケジュールは急ぎや焦りの気持ちを生じさせるだけでなく、疲労の原因にもなります。それでは心身のリフレッシュやリラックスを求めるはずのドライブが、ストレスや疲労を生むだけのドライブに変わってしまいかねません。事前に渋滞予想などの道路情報を収集したうえで、サービスエリア等での十分な休憩も盛り込んだ余裕のあるスケジュールを立てましょう。

飲料水や携帯トイレを用意する

観光地へ向かう道路は混み合うものですが、自然渋滞の他に事故による渋滞もしばしば発生します。特に高速道路では大渋滞に巻き込まれると身動きがとれなくなってしまい、このようなときに水分が不足すると、最悪の場合脱水症状を起こす危険性があります。高速道路は一般道路と違って道路脇に自動販売機は設置されていませんから、あらかじめ十分な飲料水などを用意しておくとともに、サービスエリア等に立ち寄ったときに補給するなどして切らさないようにしましょう。

また、携帯トイレもあると安心ですから、用意しておくといでしょう。

高速道路に入る前に燃料をチェックする

高速道路で燃料切れを起こすと、単に走行計画が狂ってしまうというだけにとどまりません。本線車道に停止する場合はもちろんのこと、路肩に停止しても後続車に追突される恐れがあり、極めて危険な状態になります。高速道路に入る予定のあるときは、あらかじめ十分な燃料を補給しておきましょう。



行楽地では観光客の動きに注意する

行楽地の観光客は、光景に見とれたり土産物店や名物料理店などに目が向いて、車に対する注意が薄れている場合がありますから、観光客の多い道路ではスピードを落とすなどして慎重に走行しましょう。

また、団体客は集団で行動することもあるため、道路を横断する場合でも、前を行く人につられて歩き、自分で安全確認をしないことがありますから、団体客の動向にも十分注意が必要です。

なお、駐車場や道路脇に観光バスが停車しているときは、その陰から乗客が出てくるかもしれないと予測して走行しましょう。



カーナビに注意を奪われないようにする

道に不案内な行楽地を走行するときはカーナビに頼りがちですが、カーナビに注意を奪われると、周囲の状況に対する注意が欠けて、道路を横断する歩行者の発見が遅れたり前車の停止に気づくのが遅れるなど、事故を起こす危険性が高まります。そのため道路交通法においてカーナビの注視は禁止されています。助手席に同乗者がいる場合は同乗者にナビゲーションを頼むなどして、カーナビに注意を奪われないようにしましょう。

なお、ナンバープレートにより前車が行楽ドライブの車であると判断される場合は、道に不案内なために急な減速や停止、右左折などの思いがけない運転行動をとるかもしれないと考えて、その動きによく注意するとともに十分な車間距離をとるようにしましょう。



夕食時の飲酒はほどほどにする

一日のドライブが終わり、行楽地の宿で夕食をとるのは楽しいものです。おいしい料理にはお酒が付きものですが、車を運転する人はほどほどにしておかなければなりません。たとえ二日酔いの症状がない場合であっても、酒気が残っていれば酒気帯び運転となります。一晩眠ったから大丈夫だとは決していけないのです。

ドライブ中の昼食時の飲酒は厳禁ですが、夕食時の飲酒も控えめにしておきましょう。



「ご相談・お申込先」

阪急阪神保険サービス 株式会社

〒530-0017

大阪市北区角田町8-47 阪急グランドビル16階

TEL 06-6232-8897 FAX06-6232-8809